

地域医療支援病院運営委員会議事録

平成 29 年 6 月 7 日（月）19:30～

事務局

「それでは皆様、お時間となりましたので、始めさせていただきたいと
思います。」

「皆様、本日はお忙しいなか、平成 29 年度第 1 回 千葉市立青葉病院地域医療支援
病院 運営委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。」

「私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、当病院事務局
事務長補佐の石井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。」

「開会に先立ちまして、お配りいたしました資料のご確認、並びに本年度初めての開
催となりますので、出席委員及び職員のご紹介をさせていただきます。」

「まず、お配りいたしました資料でございますが、運営委員会次第、配布物一式一覧、
席次表、委員一覧、「地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告」「平成 28
年度第 2 回地域医療支援病院運営委員会議事録」の、以上 6 点となりますが、不足はござ
いませんでしょうか。」

「よろしいでしょうか。」

「続きまして、出席委員及び職員のご紹介をさせていただきます。
まず、外部委員の皆様よりご紹介いたします。」

○千葉市歯科医師会会長の金子委員でございます。

○千葉市薬剤師会副会長の、中村委員でございます。

○古川医院、院長の古川委員でございます。

○千葉南病院、院長の中谷委員でございます

○こいで 内科消化器科クリニック、院長の小出委員でございます。

○千葉市消防局長の、石塚委員でございます。

○千葉市保健所長の山口委員でございます。

○なお、千葉市医師会副会長の、齋藤委員と

千葉県保健福祉局健康部長の今 泉 委員、

千葉県看護協会常任理事の寺 口 委員におかれましては、
本日欠席となっております。」

「続きまして、内部委員及び職員をご紹介します。

- 青葉病院、院長の山本でございます。
 - 診療局長の横田でございます。
 - 看護部長の樋口でございます。
 - 地域連携室長の志鎌でございます。
 - 薬剤部長の安見でございます。
 - 事務長の神崎でございます。
 - 医事室長の高橋でございます。
 - 地域連携室 副室長の菅原でございます。
- 以上でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

「それでは、開会宣言に移りたいと思います。
開会宣言は、地域連携室長の志鎌先生にお願いしたいと思います。
志鎌先生、よろしくお願いいたします。」

志鎌地域連携室長 (開会宣言)

「これより、平成29年度第1回千葉市立青葉病院 地域医療支援病院
運営委員会を開会いたします。開会に際し、山本委員よりご挨拶を
お願いいたします。」

山本院長 (挨拶)

「では、この会議の議事進行を、当病院の地域連携室長であります。
志鎌先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。」

「それでは、志鎌先生、よろしくお願いいたします。」

志鎌地域連携室長

地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、説明を
お願いします。」

事務局（地域連携室）：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日の地域医療支援病院としての役割を果たす要件についてご報告いたします。

1. 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率について

地域医療支援病院紹介率 68.9% 地域医療支援病院逆紹介率 81.3%

2. 救急医療の提供実績について

病床数 ICU 4 床

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数 4, 290 人のうち入院患者 2, 070 人、上記以外の救急患者の数 3, 092 人のうち入院患者 2, 151 人

合計 7, 382 人のうち入院患者 4, 221 人でした。

3. 共同利用の実績

・病床利用 0 件

・共同利用できる高額医療機器及び設備等 CT/MR/骨密度測定器 14 件でした。

4. 地域医療従事者等に対する研修開催実績は表のとおりでした。

5. 患者相談の実績 社会福祉士 4 名 看護師 1 名 が担当しました。

入院患者 1,820 人、外来患者 393 人、その他 2,843 人で合計 5,056 人に対応しました。患者相談は、退院支援の総相談件数が 55%弱を占めている。入院早期から介入し支援するシステムを今年度より開始し、地域のケアマネージャーとの連携を地域連携室より積極的にとり、退院前カンファレンスを行うように努めています。

開業医の先生方からの入院相談や他院よりの転院相談として、356 人の支援を行なった。

外来通院中の患者さん 259 人に自宅療養支援を行ないました。

退院前訪問指導を 3 人行ないました。

6. その他の地域医療支援病院に求められる取り組みについて

①病院の機能に関する第三者による評価

平成 27 年度受審申し込み、平成 28 年 7 月 28・29 日 病院機能評価機構受審し、1 月末に認定されました。

②果たしている役割に関する情報発信

広報誌「あおば」5 月と 12 月、広報紙「もえぎ」24 回発行し、平成 29 年度も発行予定です。

③退院調整部門

平成 28 年度は、社会福祉士 4 名 看護師 1 名 合計 5 名が担当しました。

平成 29 年度より、看護師長が配属。地域連携室・担任担当者は 6 名になりました。

平成 28 年 6 月より「退院支援加算 1」を算定し、退院支援担当者を病棟配置しました。

④地域連携を促進するための取り組み（地域連携パス）

大腿骨頸部骨折地域連携パス 50 件、脳卒中地域連携パス 14 件、
大腸がん地域連携パス 3 件を運用しました。

志鎌地域連携室長

「それでは、地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、ご意見がございましたらお願いします。

小出委員：いつもありがとうございます。

こちらの共同利用実績の方の CT・MRI そして骨密度測定。先日利用しようと思って、頭の単純 MRI と単純 MRA 検査をお願いしようとお願したところ、単純の MRA はできないと言われた。外部からの MRA はできないのでしょうか？

山本院長：ありがとうございます。

通常は造影しなければ、一緒にとれます。

ただ、時間は余分にかかります。粹自体が 30 分で済むところが 1 時間とかかかるかもしれませんが、特に、単純であれば、医師が付き添う必要がないのでレントゲンの方と相談して連携室でとらせるようにしますので、大丈夫です。

小出委員：患者様が何回か受けられている人が多いので、せっかくなので混んでいるのを承知の上で利用させてもらおうと思います。

山本院長：三テスラの MR を入れて解像度もよくなっています。

共同利用が弱い部分なので、逆に、どんどんこちらからお願いして利用してもらえればと思います。

小出委員：今度からどんどん利用していきたいと思います。

志鎌医師：共同利用が少ないことが弱い部分なので、ぜひ改善してけるように努力していきたいと思います。

その他何かありますか？

山口委員：入院早期から介入し、支援するシステムを平成 28 年度から導入したとあったんですが、27 年度と変わってどういうシステムなのか前の年度との違いを教えてください。

菅原：当院では電子カルテを導入していて、今までは患者さんが入院してきたら医師、看護師が「無事に自宅に帰れるか」を評価した物、「総合的機能評価表」を紙ベースでの運用だったのが、今回昨年度の電子カルテの更新に合わせて、結果が一覧表で出るようなシステムに変更しました。その為、地域連携室でシステムを確認すれば、一覧表で退院支援が必要な患者さんがわかるようなシステムになっています。

また、退院支援加算 1 を取得するにあたり、病棟と主治医と連携して入院後 2

から3日で評価を行い、早めに評価、医療依存度が残るか、ADLが低下するかなどハイリスクかどうかを判断するシステム運用にさせていただきます。また7日以内に退院支援が必要かどうか判断する人員体制を作るため、人数を増やしています。

今まではケアマネジャーさんから情報をもらう正式なルートがなかったが、最近県からも地域連携シートの運用ということでケアマネジャーと早期から連携を図るようにとの啓蒙活動もあってケアマネジャーさんからも早期に情報提供をいただけるようになりましたし、私たちからも情報提供の依頼をするようにしてお互いにアクセスをして、情報交換を行いスムーズに支援をおこなえるようなシステム運用をしています。

山口委員：地域連携室が要になって、中心になっているようなイメージ。

菅原：地域連携室だけではなく看護部や医師、リハビリなど他職種で情報交換を行い、連携してサポートするようなシステム運営をしています。ただ、まだ始めたばかりでうまくいかない部分もまだありますが、そういう体制を今後作っていきけるように努力していきます。

志鎌地域連携室長

「その他、ないようですので、この議題については、説明のとおりとさせていただきます。」

志鎌地域連携室長

「議題は以上でございますが、その他、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。」

神崎事務長：当院念願でありました災害拠点病院の申請の方を昨年3月に申請しました。様々な障害がありましたが、救急車、ヘリポート、D-MAT研修への参加など様々なものをクリアしまして、3月13日に申請し、審査をいただきまして、4月1日に無事認定されました。これは千葉市では、千葉大学病院、救急医療センター、千葉医療センター、海浜病院に続いて、5番目です。海浜病院も認定を受けていますが、災害時には青葉病院が頑張らないといけないと認定を目指していました。今回取得できましたので報告です。

古川委員：地域医療支援病院としての役割の要件、資料にありますが救急の患者4300件。大変忙しい。一般の診療に支障はきたさないのか。もう少し、こう救急の患者さんが増えてしまったら、先生方が大変になってしまう。限界ではないか。うっかり先生に患者を紹介するのは、これ以上紹介するのは現状の体制では難しいのではないかと感じてしまう。どうでしょうか。これは感想です。

山本医院長：救急車は救急部と内科系、外科系と系統を分けて受けている。他の医院からの紹介の患者さんや自医院のかかりつけの患者さんは内科の当番医で、一般に救急車からの相談は救急部で、外科・整形外科はそれぞれ各科で受けています。

入口は一緒だが、受けてはいくつかに分かれていますし、昼間は内科系では当番に分かれていて、紹介の患者さんや救急車は主に1年目から4年目の若手の先生がペアで見て、内科部長に報告するようになっていますので、何とか大丈夫だと思います。また、一見の患者さん以外でかかりつけの先生からの紹介に関しては、入院適応になる方が多いですし、診断もついているので当院としてはありがたい患者さんになりますので、どんどんご紹介いただけるとありがたいです。

古川委員：これからもよろしくお願いします。

ただただ、先生方のお身体が大丈夫かと心配なだけです。

志鎌医師：他には何かありますか。

中谷委員：2点ほど。救急車の移送の場合の差はなぜついたのか？MRなどを依頼された場合のレポートはどのような物を出しているのか。実績としては千葉南病院よりだいぶ少ない。たぶん放射レポートをしっかりと書くことが紹介につながっている。青葉病院ではどのように紹介してくれて医師にレポートを出しているのか。そこをしっかりとしていれば、もっと紹介はくるはず。もしくはレントゲン室のスペースが足りないとか別の理由があるのか。

菅原：2つ目の質問の方ですが、MRのレポートに関しては、放射線科の医師が常勤ではないので。

中谷委員：常勤はいないのか。千葉南病院では常勤の脳外科医がいるから。神経内科の医師にかかせればどうか。読影医はいないの。

山本院長：常勤はいなくてパートで来てもらっています。だから大学の放射線科医に来てもらって読影してもらっています。毎日はいなくて、ある程度の期限以内に来院した時に、何枚と枚数で対応してもらっています。

中谷委員：レポートが紹介してもらった先生に早く返せると紹介件数は上がると思う。

山本院長：依頼があったものは最優先でレポートを書いてもらっているのですが、先ほども話したように毎日読影医が来るわけではないので、その日にレポートを作成することはできない。2、3日中にはできるのですが。

中谷委員：結果を早く返せば、この結果はすぐに上がると思う。

山本院長：放射線科医が不足していて、常勤医の獲得は非常に難しい状態です。

中谷委員：しっかりしたレポートが上がってくるかが問題だと思ったので。もう一つの救急車とそれ以外の救急患者との差はなんですか。救急車で来た人の方が入院患者につながると思うのだが、実際は少ないのはなぜか。

横田診療局長：当院の救急車の特徴で、0時以降の深夜の救急車の受け入れが多い。それは他の病院ではその時間に救急車を受け入れられない。そう事情もあり、深夜の救急車の受け入れは重症ではない患者さんも多くなっていることも一つの可能性ではあるのかと思います。自力で病院に来る方は受診の意志があって来院しているので、入院になる割合が多いのかなと思います。当院のかかりつけの患者さんが外来にきて入院になっているケースが多いのかと思います。

志鎌医師：放射線レポートのことは院内でも完成率が2週間くらい経たないと100%にな

らないことが問題になっています。

山本院長：ただし、外からの依頼にはなるべく早く優先して対応してもらえるようにしている。パートの読影医が対応しているのでこちらから優先順位を付けて読影を依頼している。普通の診療の場合でもがん疑いなどコメントを付けることで優先的に読んでもらえています。外からの依頼には早く対応しているが何時間後にはできますとは言えない状況です。

中谷委員：院内の場合はお互いにどうと見せ合い、話し合うことができるからそれほど急ぎではなくてもいいと思うが、外からの依頼はそういったこともできないので、できるだけ急いでもらえればと思います。

志鎌医師：なるべく改善していけるようにします。

小出委員：感想ですが、循環器ホットライン 2 件使わせていただきました。2 件とも迅速に対応していただいて。1 件はすぐにステントを入れていただき、救命をしていただきました。もう 1 件はすぐには心カテをしなくて大丈夫とのことだったので、2 日目に狭心症の診断で心カテをやっていただきました。2 件ともすぐに循環器の医師が電話に出ていただき、対応していただきました。こころ強かったです。2 名ですが使ってみた感想でいいなと思いました。使い勝手がすごく良かったです。

山本院長：千葉市の医療圏では心カテ件数は半分以上はメディカルセンターで対応しているので、当院や海浜、大学病院で行っている件数も少ないので安心して依頼してください。

志鎌医師：心カテをやりたい医師が揃っていますので、ぜひホットラインで依頼をください。まだ周知が足りないのでこれからどんどん周知していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

志鎌連携室長：「他に何かございますか。」

「ないようですので、以上をもちまして、平成 29 年度第 1 回千葉市立青葉病院 地域医療支援病院 運営委員会を閉会させていただきます。

本日は、お忙しいなかご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。
なお、事務局よりご連絡がございますので、よろしくお願いします。」

事務局

「皆様、お疲れ様でございました。事務局より 1 点ご連絡を申し上げます。

次の開催でございますが、来年 1 月を予定しております。

後日、事務局よりご連絡をさせていただきますので、当運営委員会への出席につきまして、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は、お忙しいなか、誠にありがとうございました。」